

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F147110111736	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
大学名	琉球大学	設置区分	国立	事業計画名	島嶼スマート社会を共創する琉球大学高度IT人材育成プロジェクト
学校種	大学	都道府県	沖縄		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】<博士>3人 <修士>18名 理工学研究科工学専攻（博士前期課程）入学定員93名（内、知能情報プログラム：18名） 理工学研究科総合知能工学専攻（博士後期課程）入学定員3名 6月 理工学研究科工学専攻（博士前期課程）概算要求手続き	【情報系組織の入学定員】<博士>3人 <修士>18名 理工学研究科工学専攻（博士前期課程）入学定員93名（内、知能情報プログラム：18名） 理工学研究科総合知能工学専攻（博士後期課程）入学定員 3名 6月 理工学研究科工学専攻（博士前期課程）概算要求手続き	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 7月 「高度情報専門人材育成プロジェクト会議」の設置 ② 7月 「高度情報専門人材育成プロジェクト会議」：博士前期課程のプログラム強化・再編に伴う教育カリキュラムの整備（学生便覧、シラバスの修正等） ③ 8月 博士前期課程のプログラム強化・再編に伴う工学部1号館等（PBL演習室、共創の場「学びの交差点」等）の改修工事の実施(竣工予定時期：3月頃) ④ 9月 採用教員および実務家教員(非常勤講師)手続き ⑤ 10月 本事業に係る事務系職員の配置 ⑥ 2月 教育カリキュラムの整備・更新に伴う備品等の納入 ⑦ 2月 学則等の整備（博士前期課程定員変更） ⑧ 3月 「高度情報専門人材育成プロジェクト会議」：博士前期課程の教育プログラムの実施計画の確認	① 4月「高度専門人材育成推進室」の設置 ② 4月「高度専門人材育成推進室」：定員充足の取組み、入試およびカリキュラムの検討等博士前期課程のプログラム強化・再編に伴う教育カリキュラムの整備（学生便覧、シラバスの作成等） ③ 8月 博士前期課程のプログラム強化・再編に伴う工学部1号館等（PBL演習室、共創の場「共創技術ラボ琉大」等）の改修工事の実施(竣工予定時期：3月頃) ④ 9月 採用教員および実務家教員(非常勤講師)手続き ⑤ 10月 本事業に係る事務系職員の配置 ⑥ 2月～3月 教育カリキュラムの整備・更新に伴う備品等の納入 ⑦ 1 2月 学則等の整備（博士前期課程定員変更） ⑧ 3月 「高度情報専門人材育成プロジェクト会議」：博士前期課程の教育プログラムの実施計画の確認		
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<博士>3人 <修士>43名 4月 理工学研究科工学専攻（博士前期課程）5名増員（入学定員98名（内、知能情報プログラム：23名、システム情報工学プログラム：20名）） ① 4月～10月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 4月 教育カリキュラムの整備・更新に伴う備品等の納入 ③ 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討、博士後期課程の教育カリキュラムの整備（学生便覧、シラバスの修正等）		R7年度自己評価	リストから選択してください。
令和8年度	【情報系組織の入学定員】<博士>3人 <修士>43名 6月 理工学研究科総合知能工学専攻（博士後期課程）概算要求手続き ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討 ③ 2月 学則等の整備（博士後期課程定員変更）		R8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<博士>6人 <修士>43名 4月 理工学研究科総合知能工学専攻（博士後期課程）3名増員（入学定員 6名） ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討		R9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	【情報系組織の入学定員】<博士>6人 <修士>43名 ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討		R10年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<博士>6人 <修士>43名 ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討 ③ PC等情報機器の更新		R11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度	【情報系組織の入学定員】<博士>6人 <修士>43名 ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討 ③ ネットワーク設備等情報機器の更新		R12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<博士>6人 <修士>43名 ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討		R13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度	【情報系組織の入学定員】<博士>6人 <修士>43名 ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討		R14年度自己評価	リストから選択してください。
令和15年度	【情報系組織の入学定員】<博士>6人 <修士>43名 ① 4月 本事業に係る教員及び事務系職員の配置 ② 高度情報専門人材育成プロジェクト会議：学生募集、教育内容、入学・修了状況等の評価と改善策の検討		R15年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	琉球大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table><tr><td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>認定を受ける計画が進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	琉球大学
-------------	-------	-----	------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
地域情報産業の連合体である一般社団法人沖縄県情報通信関連産業団体連合会（IT連）及び一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター（ISCO）と協働で実践教育を進める計画となっている。具体的には、既存のインターンシップに加えて、実践課題によるPBL演習及び先端実践技術（IoTセキュリティ、AI応用等）に関する授業を、大学院演習科目実践演習を設置して提供する。これらの授業の一部は企業からの寄附講義として提供する計画となっている。既に2023年3月にISCOと連携協定を締結している。IT連とも速やかに協定締結に向けて調整を行う。また、沖縄県、西原町などの自治体からはDX推進に係る実践的なPBLの課題を提供してもらうことにより、双方のメリットが引き出せるような産学官協働による高度情報専門人材育成の取組を実施する。これらの取組によりアウトプット重視の教育の質を高めるとともに、学生と地域企業、自治体との直接の接点を設けることができる。これにより、学生の地域社会、県内企業に対する理解が深まり、県内就職者数の増加にも繋げられる。 地域との連携のためのスペースとして、共創の場「学びの交差点（産学連携サロン）」を整備し、オープンスペースで議論やワークショップが自由に実施できるようにする。また、共創の場は企業の若手エンジニアが大学の先端技術に触れる場所としても活用することで、社会人入学への動機付けの機会にもなり得る。	・県内の情報産業団体の方を委員とした「高度情報専門人材育成プロジェクト会議」を設置し、R7年度新設する高度情報実践型のPBL演習（アントレプレナーシップ演習、システムエンジニアリング演習）、先端実践技術（AI、情報セキュリティ等）を修学する情報基盤4科目および情報関連の専門科目に対する助言等を受けた。 ・PBL演習を担当する情報を専門とする実務家教員2名（クロアボ）を採用した。R7年度より本学教員と連携した講義を開始する。 ・地域連携スペースとして、共創の場「共創技術ラボ琉大」を整備した。R7年度より、PBL演習や県内IT関連企業とのワークショップや本学卒業生・修了生と現役学生との交流会などを開催し、本事業の広報と大学院進学率の向上を図る計画である。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
理系女子育成促進のための美ら夢サイエンスプロジェクト琉球リケジョ、琉大ハカセ塾、琉大カガク院の3つの次世代人材育成事業を、科学技術振興機構（JST）からの支援を受けて積極的に取り組んでいる。また、沖縄県教育委員会との協定に基づいた高大連携事業として、情報教育に関する公開授業、公開講座、出前講座を継続して実施している。さらに、小中学校のPTAと連携してプログラミング教室の活動を行っている。これらの活動は支援期間中も含めて継続して実施する計画となっている。さらに、オープンキャンパス等を活用し、研究室や施設見学、研究体験プログラムを実施し、理工系の魅力やSDGsの観点に立った情報分野の可能性を伝えるとともに、女子学生には女性技術者ロールモデルの紹介により、将来をリアルに想像できる取組を行っており、今後もより積極的に実施する計画である。	・JST支援事業の夢サイエンスプロジェクト（琉大ハカセ塾、琉大カガク院）において、県内小中学生を対象に人材育成事業を実施した。工学関係では79名の小、中、高校生に対して、「情報工学：音を作ってみよう」の実験等を通して、工学分野の魅力を教育した。 ・沖縄県DX推進課とのR7年度開始する県内のDXハイスクール事業に関する調整会議を開催した。本学と県およびDXハイスクール校との情報共有を図り、アイデアソン、プログラミング研修、ハッカソン（合宿研修）、DXハイスクール成果発表会などの各種事業を計画した。また、各高校へのDX出前講座などを計画した。 ・地域連携スペースとして、共創の場「共創技術ラボ琉大」のオープンスペースを整備した。R7年度より、理工系の魅力やSDGsの観点に立った情報分野の魅力を伝えるとともに、女子学生には女性技術者ロールモデルの紹介により、将来のキャリアパスに想像できる取組を実施する計画である。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
JST事業の美ら夢サイエンスプロジェクト琉球リケジョを実施することで理系志向の女子学生の掘り起こしを行っている。並行して、システム情報工学プログラムへの進学対象の工学部3コース（機械工学、エネルギー環境工学、社会基盤デザイン）においてR6年度入学者対象の入試から総合型選抜Ⅰ、学校推薦型選抜Ⅱに女子枠入試を先行実施しており、今後、女子枠入試の効果を評価し、他コースへの拡大を検討する。本事業で強化するアウトプット重視の教育方法においては、女子学生の増加により多様化が増すグループ演習が期待でき、より効果的な学修環境を構築しやすくなる。女子枠の設定は学部入試を対象とするが、入学後の女子学生向けのキャリア教育などと合わせると、大学院における女子学生確保にも繋がるものと考えている。 社会人学生向けには、博士前期・後期課程において入試を実施するとともに、入学後にはオンライン授業や夜間の授業も設置できるような工夫も行っている。留学生には英語による教育プログラム（留学生特別プログラム）を設置しており、多数の志願者が継続して存在する。	・JST支援事業の夢サイエンスプロジェクト（琉大ハカセ塾、琉大カガク院）において、理系志向の女子学生の発掘を実施した。工学関係では50名の女子学生に対して、データサイエンスや実験等を通して、工学分野の魅力を教育した。 ・情報分野および工学分野の興味を伝える体験型授業（にゅふぁ星講座）を高校生を対象としてR6年度より開始した。参加学生はCAD操作等の体験型講義を受講し、それらの学生は本学工学部を受験し入学した。 ・女子枠を導入した特別選抜入試を受験した女子高校生が入学している。引き続き、オープンキャンパス等で女子枠入試を広報し、女子学生増を図る。 ・社会人特別選抜入試を行い、知能情報プログラムとシステム情報工学プログラムともに1名の社会人が入学した。 ・留学生を対象とした大学院の特別プログラム選抜を行い、知能情報プログラムに2名の留学生が入学した。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
筑波大学、公立はこだて未来大学等との連携により、ビジネスシステムデザインというテーマでユーザーの課題解決を目的とした高度情報実践教育を実施する。学部生・大学院生が参画可能で、各大学の通常授業として実施しながら、オンラインを活用した大学間交流により教育効果を高めることができる。本大学間連携事業には企業技術者も積極的に関わっており、学生は、自身が所属する大学の教員に加えて、他大学教員、企業技術者から直接指導を受けることが可能となる「大学間連携・産学協働の教育プログラム」となっている。また、本教育プログラムにおける学生チームの成果物（プロダクト、サービス）を発表する機会として、イベント「AgilePBL祭り」を複数大学教員＋企業技術者のチームで企画、開催する。AgilePBL祭りは企業からの寄付で学生の旅費、会場費等が賄われるため、本学学生にとっては経済的負担もなく、対面で他大学学生、教員、企業技術者と交流できる貴重な機会となる。 国立沖縄工業高等専門学校（沖縄高専）とは、学習成果報告会、研究交流を毎年実施するなど、情報系を中心に学生間交流、教員交流による連携を継続している。今後、さらに連携を強化し人材育成の推進に繋げる。また、本高度情報専門人材育成プログラムの内容を高専生へ発信し、大学院の魅力を伝え、大学院進学へと繋げていく。さらに、高専からの3年次編入と本事業の高度情報専門人材育成プログラムのシームレスな履修方法を整備することで、学部・大学院一貫教育プログラムを入学時に選択できる体制を構築する。	・学部3年生27名を対象に、筑波大学および筑波技術大学と連携し、ビジネスシステムデザインに関するユーザー課題の解決を目的としたPBL演習を実施した。夏季休暇中には、開発論の基礎に関する集中講義を開講し、琉球大学および筑波大学にそれぞれに企業エンジニアを講師として配置し、オンラインを活用した同時レクチャーのほか、大学ごとのミニ開発、大学間での相互レビューを行った。後期には、各大学ごとに開発を進めつつ、学生の活動の場としてオンラインチャットシステムを共用することで、大学を超えた意見交換や情報共有を可能にした。年度末(2025年1月24日)には合同成果発表会を開催し、琉球大学38名、筑波大学56名、企業エンジニア等11名が参加した。さらに、琉球大学、筑波大学、筑波技術大学、公立はこだて未来大学、の教員と企業エンジニアらで設立した会社を通してスポンサーを募って会場費や学生旅費を確保し、「AgilePBL祭り」を2025年3月23日に東京都で開催した。約100名が参加者し、PBL開発に関する成果発表や教育手法に関する議論が活発に行われた。 ・沖縄高専との連携活動として、2024年12月12日に沖縄高専創造実践棟1階創造ホールを会場として「琉大工学部・沖縄高専学生研究発表交流会」を開催し、琉大生16件、沖縄高専生24件のポスター発表形式の研究が発表され、両校の学生、教員の活発な研究交流が行われた。その連携の成果として、沖縄高専からの3年次編入生が入学した。	

大学名	琉球大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	-----------------

本事業対象となる研究科等の個数	1
-----------------	---

1.本事業対象となる情報系組織の状況

1-1. 博士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	理工学研究科総合知能工学専攻
-------	----------------

[illegible]

大学名	琉球大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	-----------------

本事業対象となる研究科等の個数	2
-----------------	---

1. 本事業対象となる情報系組織の状況

1-2. 修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	理工学研究科システム情報工学プログラム
-------	---------------------

[illegible]

大学名	琉球大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	-----------------

4 .外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	4,897,253																		

特記事項

・「１－１．博士課程」、「１－２．修士課程」、「２－１．博士課程」、「２－２．修士課程」、「３－１．博士課程」、「３－２．修士課程」の「その他の学期」の「入学定員」に記入している「0」については、本学では春学期とその他の学期をあわせて入学定員を設定しており、「その他の学期」に個別に入学定員を設定していないことを意味する。

・「２－３．学士課程」の「入学定員」、「収容定員」及び「編入学定員」は、工学科全体として定員が定まっており、情報組織個別の定員設定がないため、「入学定員」は入学者数とみなして記入し、「収容定員」は在籍者とみなして記入し、「編入学定員」には「0」と記入した。